

平成 16 年度
高知城石垣整備事業に伴う発掘・確認調査

kochi castle

高知城三ノ丸

記者発表および現地説明会資料



日時 記者発表 平成 17 年 2 月 24 日 (木) 午前 11 時～
現地説明会 平成 17 年 2 月 27 日 (日)
第 1 回説明午前 10 時～ 第 2 回説明午後 2 時～
場所 高知市丸ノ内高知城三ノ丸の発掘調査現場

高 知 県 教 育 委 員 会
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

平成16年度 高知城石垣整備事業に伴う発掘・確認調査にかかる 高知城三ノ丸解体発掘調査概要

1、はじめに

高知城は、国史跡であると同時に住民の憩いの場で、さらに観光地でもあります。歴史的文化遺産として誇るべき高知城の石垣で、近年孕みや陥没が生じていることが判明しました。高知県教育委員会では、特に本丸南石垣と三ノ丸石垣について安全性を考慮し、積み直し等の防災上の措置をとる必要性から、石垣整備を行うことにしました。本丸南石垣は昨年度終了し、今年度は三ノ丸の解体調査に



三ノ丸隅角部の石垣亀裂

入っています。三ノ丸の石垣は、南・東・北部分に構築されていますが、三ノ丸の中で石垣整備が計画されている箇所は、東石垣の南側部分と南石垣です。昭和40年に、三ノ丸の東石垣北側部分



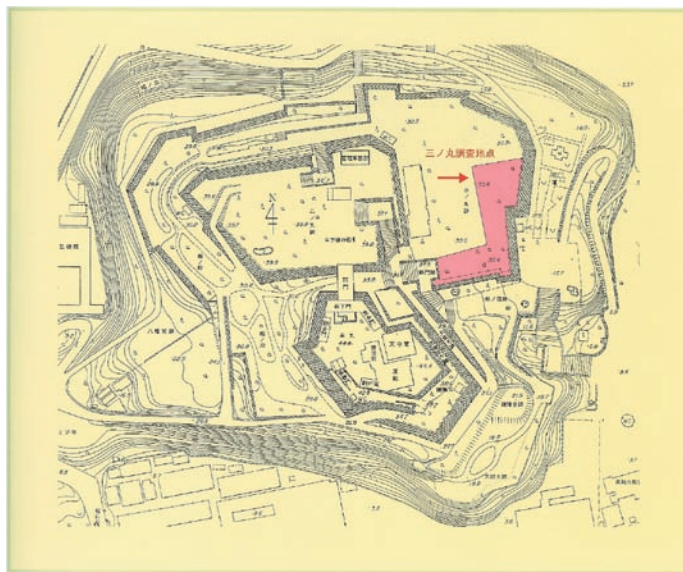
昭和40年の解体写真

の石垣が改修され積み直しが行われています。この時の改修は、発掘調査もなされないまま石垣が解体されましたので、正確な記録が残っていません。

今回石垣整備に伴う発掘調査は、三ノ丸の中で下図の部分を実施し、石垣解体は東石垣の南側部分のみを行いました。来年度南石垣を解体する計画です。ここでは、発掘調査と解体調査の成果をまとめて紹介することにします。

2、高知城の歴史

高知城の歴史は、南北朝時代までさかのぼり、南朝方の武将である大高坂氏の居城として知られています。その後、長宗我部元親や山内一豊が入城し幕末まで山内氏の居城となったことは周知されているところです。ここでは、調査成果を語る上で重要な画期となる年代を以下に記しておきます。



三ノ丸の発掘調査地点

南北朝時代・・・大高坂松王丸が居城
 室町時代・・・城主不明
 安土桃山時代・・・長宗我部元親が岡豊城から移る
 天正15（1587）年から16（1588）年・・・初めて
 三ノ丸に石垣を築く
 天正19（1591）年・・・浦戸城に移る
 江戸時代・・・山内一豊入城し以後山内氏が幕
 末まで居城
 慶長6年（1601）・・・山内一豊築城に着手
 慶長8年（1603）・・・本丸・二ノ丸工事が完成
 慶長16年（1611）・・・三ノ丸工事が完成
 慶安3年（1650）・・・三ノ丸の石垣崩れる
 宝永4年（1707）・・・三ノ丸北石垣崩壊
 享保12年（1727）・・・越前町より出火し高知城炎上
 宝暦3年（1753）・・・三ノ丸再建



長宗我部元親が築いたと考えられる三ノ丸の石垣

3、調査について

1) 調査名

平成16年度高知城石垣整備事業に伴う発掘・確認調査

2) 調査体制

調査委託者 高知県教育委員会

調査受託者 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

3) 調査面積 730㎡

4) 調査期間 発掘調査 平成16年8月9日から10月22日

解体調査 平成16年11月8日から現在に至る

5) 調査の方法

三ノ丸石垣整備事業に伴う石垣整備箇所
 の石垣解体にあたり、石垣背面の解体工
 事で影響が出る範囲について発掘調査
 を実施し写真撮影と測量で記録保存を
 行います。石垣解体調査については、
 工事と並行して石垣裏ゴメと盛土状況
 の調査を行い、遺物の出土状況や断面
 の記録を取ります。さらに解体後の築
 石について、規模を含め石質と刻・墨
 書の調査を行います。



三ノ丸調査前風景



解体前の発掘調査でのコンボによる表土掘削

手作業での遺構検出作業



4、発掘調査（解体前）の検出遺構と出土遺物

1) 検出遺構

水路遺構

集石遺構

ピット・土坑等

2) 出土遺物

中世・・・貿易陶磁（青磁・染付・白磁）・瓦質土器・備前焼

近世・・・唐津焼・伊万里焼・備前焼・瓦等



水路遺構（石蓋が付いている）



集石遺構



伊万里焼德利出土状況



備前焼甕出土状況



染付（中国産）出土状況



唐津焼杯



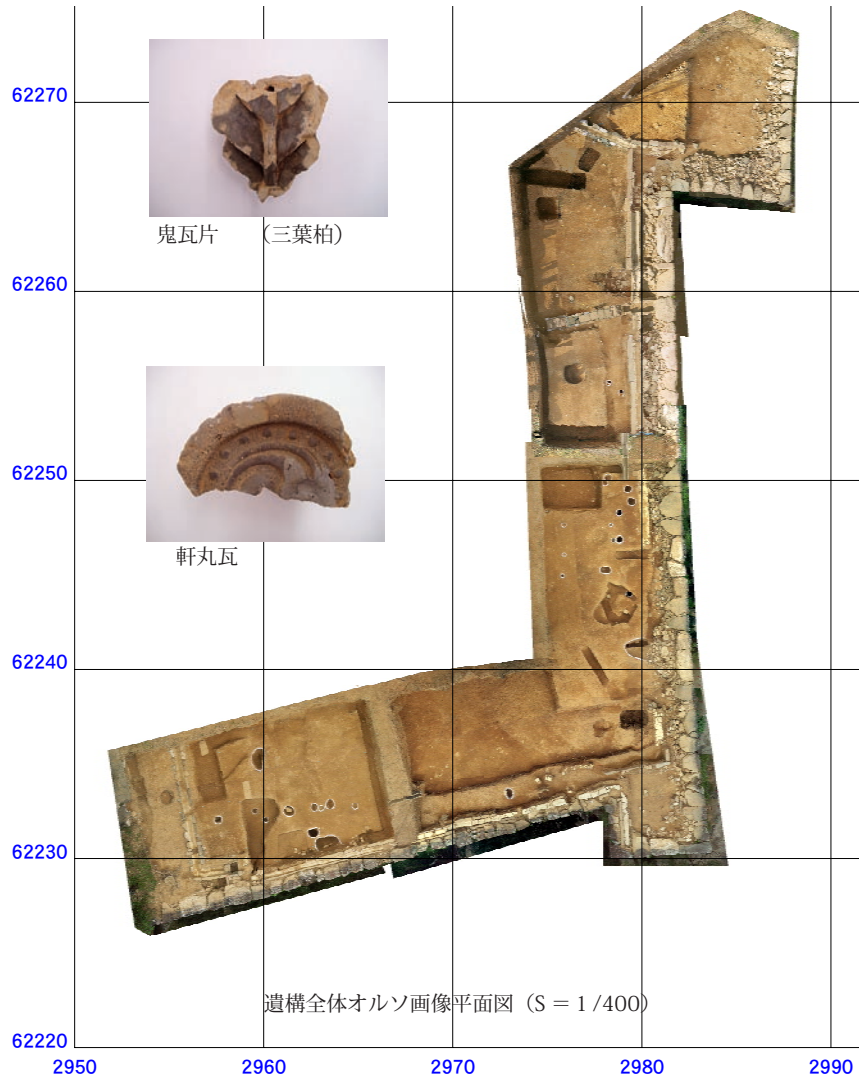
染付（中国産）



備前焼壺



備前焼甕



5、解体調査について

1) 裏ゴメ・盛土調査

石垣解体と同時に進められる裏ゴメと盛土掘削の段階で、並行して考古学的な調査を進めました。盛土中からは、多くの遺物が出土し盛土の年代の決め手になりました。

2) 盛土層序 (下写真参照)

I層とI'層は、盛土の上層です。II層は少し色が黒っぽい層です。この層から多くの遺物が出土しており、下限の年代で1650年頃生産された伊万里焼があります。このII層は、慶安3年石垣崩壊で改修した痕跡の可能性があります。その下のIII層は、盛土下層としています。この層から瓦片が多く出土しています。IV～VI層は、中世の表土面と考えられます。この層からは、中世の遺物しか出土していません。

3) 旧石垣を検出

現存石垣の裏側で、旧石垣を検出しました。地山をL字状に掘削し、裏ゴメと築石(つきいし)の一部を検出しました。



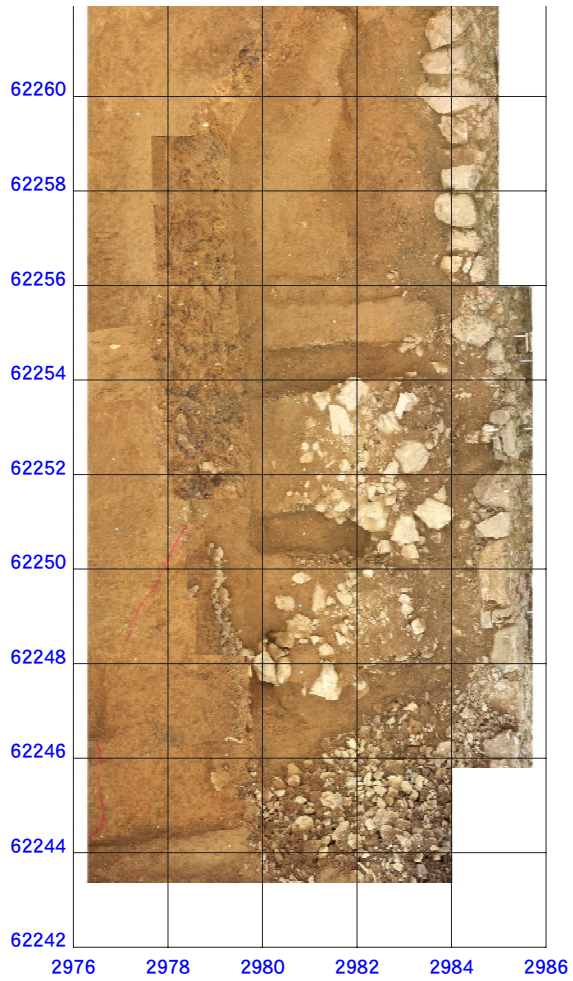
解体調査風景



肥前陶器(唐津焼)出土状況



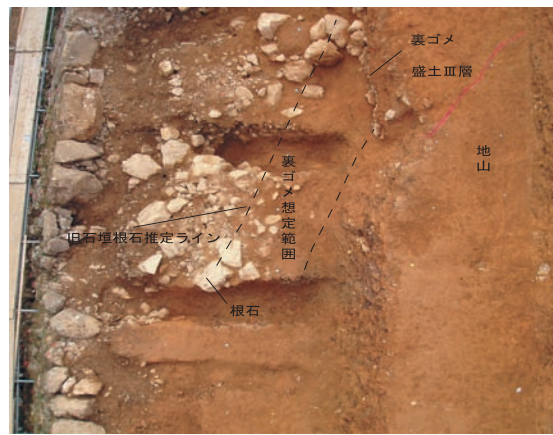
解体調査区北側部分の盛土を含む層序



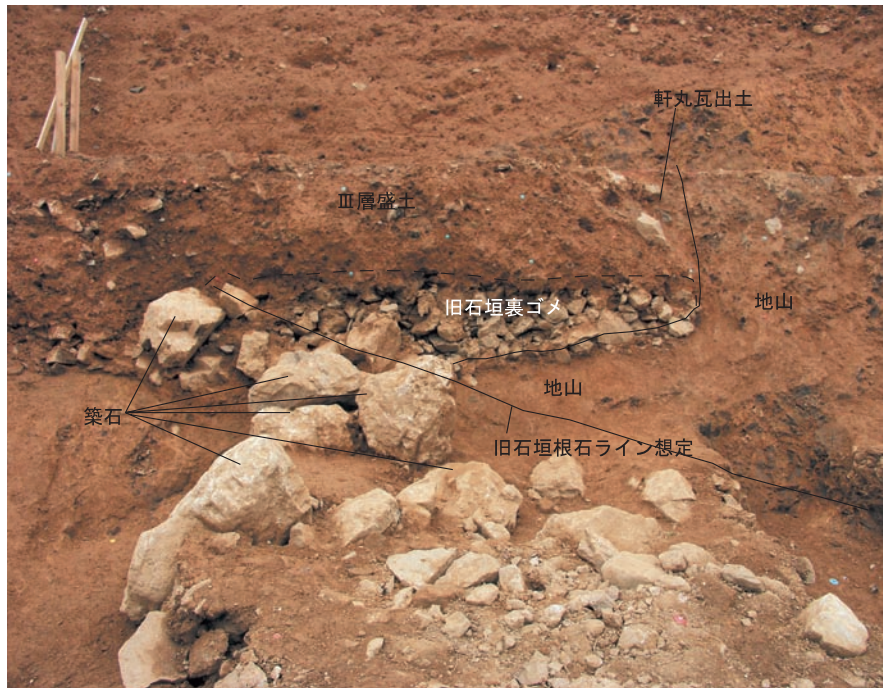
旧石垣検出面オルソ画像図 (S = 1/160)



解体調査区南側部分の盛土層序写真



旧石垣平面写真



旧石垣断面図 (南北)

6、調査成果

1) 旧石垣を検出

石垣解体調査で、旧石垣を検出しました。旧石垣は、現存石垣の下端部から約3mの高さで、裏側に約4～6m奥の地点で見つかりました。旧石垣は、残りが悪く根石（ねいし）と考えられる部分と、裏ゴメ部分を検出したのみです。さらに当時積まれていたと考えられる築石（つきいし）

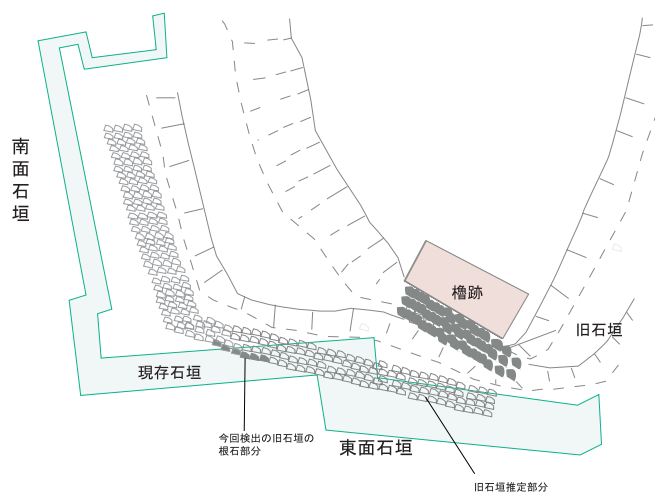


現存石垣断面（東西）

も見つかりました。三ノ丸の現存石垣は、慶長16(1611)年に構築されたと文献では記載されています。旧石垣は、現存の石垣裏側から検出されておりますので、慶長16年以前に構築されたと考えられます。高知城の歴史からすると、慶長16年は二代藩主忠義の治世ですので、それ以前となると山内一豊か長宗我部元親の頃に築かれた石垣ということになります。今回は、旧石垣の一部を検出したのみですが、来年度解体調査区に旧石垣が延びていますので、全体の説明は来年度になりそうです。

2) 慶長16(1611)年以前の瓦葺建物の存在

二代藩主忠義の治世に、三ノ丸の石垣や建物を完成させています。それ以前の三ノ丸の歴史は、考えられていませんでした。平成12年の三ノ丸試掘確認調査で、長宗我部期と考えられる石垣が検出され三ノ丸の歴史が見直され始めました。この時は石垣のみで、建物の存在やその建物に瓦が葺かれていたかどうか明確にできませんでした。しかし今回の調査で、慶長16年の造成のときの盛土中からたくさんの瓦片が出土しました。盛土中から出土するということは、それ以前に使用されていた瓦ということになります。今回検出した旧石垣と同様、山内一豊か長宗我部元親のいずれかの時代に既に三ノ丸には瓦葺の建物が存在していたということになります。



高知城（大高坂城段階）の三ノ丸曲輪及び旧石垣推定復元図

